



この時期になるとふと頭に浮かぶ情景があります。通り行く人々のにぎわい、きらびやかな飾り付け、どこからともなく聞こえてくるクリスマスの音楽にわくわくしたものです。とは言っても、小さな町の駅前商店街の話です。

「くるみ餅」ってご存知ですか？枝豆をつぶし砂糖を入れた餡（あん）でおもちを包んだものです。和歌山市にはありません（たぶん）。紀ノ川沿いのそれも東の方で食べられているおもちで、それはそれはおいしいんです。あんこやきな粉より数段上のレベルかもしれません。10月になるとその地方のお祭りの習わしで作られていて、私（わたくし）も普通に食べていました。以前その時期に、懐かしい想いにかられスクーターを走らせ餡（あん）を買いにいくと（なぜかその餡は、お豆腐屋で売っていました）、えっ！豆腐屋があった場所が広い道になっている…。キツネにつままれたような気分でした。あまりに残念でくやしくて、おまけに余計に無性に食べたくて、その付近のお米屋さんまで聞きましたが、この町ではどうやら手に入らないような返事でした。

私の家から小学校までの通学路にはたくさんお店が並んでいて、日曜雑貨から食料、電気製品から服まで、生活に必要なものは何でもそろった雑然とした商店街は、整然とした広い道に見事なほどに変わっていたということです。小さな町でもそれなりの年末年始の楽しみがあり、他がどうあれ自分の町が一番いいんだと子どもなりに思っていました（そうそう、ぶら●●丁も同様で、いったい人はどこに消えたの？と思うぐらいシーンとしますね）。楽しい買い物をするためには、車で山を越えた大型ショッピングセンターへ行かないとダメなのですね。素敵なクリスマスは、さしずめU●●JやT●●Lあたりに行かないと体験できないのでしょうか。



日なたでくつろぐお年寄りや公園で遊ぶ子ども達の姿。お店の前で立ち話をする声。八百屋・魚屋・肉屋さんのからの匂い。静かできれいで整然としたところよりも、雑然とした中でも暮らしの息遣いが感じられる方が私は絶対に好きです。

学校も同じでないでしょうか。ずっと座って話を聞き、練習通りに発表する子どもの姿もあって当然でしょうが、笑い声、はしゃぐ姿、怒る先生の声が聞こえてくるのもまたありでしょう。参観や発表会の整然とした様子とともに、雑然としながらも生き生きとした日頃の様子も皆様に見ていただきたいものです。

来年の学校開放月間には、行事や催しが無い平日にもぜひお越しいただければ幸いです。